

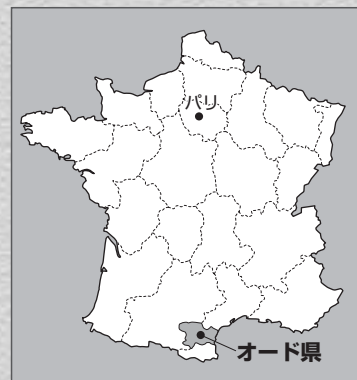
歴史・地域特性を活用した地域振興

フランス オード県

海外の
地方自治体

(財)自治体国際化協会 パリ事務所所長補佐 松本 正浩(石川県派遣)

カルカッソヌの城塞とミディ運河という世界遺産を二つ有するオード県は、南仏の典型的な農業県であり、IT関係やナノテクノロジー等の最先端産業とはあまり関連のないところであるが、長い歴史と伝統を活用して独自の地域振興施策を実施しており、その施策について紹介する。



位置

南仏オード県は、県庁所在地カルカッソヌまで、パリから国鉄の従来型特急で七時間半、新幹線TGVと在来線を乗り継いでも六時間、またフランス南西部の中心都市トゥールーズ(エアバス社で有名)から特急で一時間弱に位置する、人口約三十一万人の県である。

西はトゥールーズに続く高速道路A六一が、世界遺産であるミディ運河と並走するように県内を横断しており、また東は地中海に接している。遠くにはピレネー山脈が一望でき、スペインとの国境にも近いところである。

概要

オード県はラングドック・ルシオン州に属しており、オード県の名前を聞いたことがなくても、世界遺産に登録されている城塞都市カルカッソヌはご存じであろう。また年間三〇〇日は強い風が吹くとされ、県内の所々で風力発電所の風車を見ることがができる。

これといった大きな産業はないが、フランス国内ではワインの生産地として有名である。世界三大珍味の一つ、トリュフもこの地方で採取される。白いんげん豆、ベーコン、



↑発電用風車の模型



↑ブドウ畑と、丘の上の白い発電用風車群

ソーセージを煮込んだ郷土料理であるカスレ(cassoulet)も有名である。

また最近では、リオン湾に面した地中海沿岸部では、英国人が別荘を買い求め保養に訪れるとのこと(カルカソンヌに空港はあるが、定期便はパリとは結んでおらず、英国のロンドンとベルギーのブリュッセルを結ぶのみである)。

県職員の数約一五〇〇人であり、その七割以上が女性である。フランスにおいては、県の業務は日本と違いかなり限定的であり、



↑オード県議会(県庁)にて。左端が県議会議長(＝県知事) Marcel RAINAUD氏、右から二人目が官房長Pierre GABAS氏

社会福祉関係の業務が多くを占める。

歴史

この地方は、紀元前六世紀ころからローマ人が進出し、五〜六世紀ころには西哥ト族が侵攻した。中世においては、キリスト教異端の一派であったカタリ派(アルビジョワ派とも呼ばれる)が諸侯の庇護の下、ラングドック地方で伸張したが、フランス国王と結んだローマ教皇はこれを強く弾圧し、アルビジョワ十字軍等によりカタリ派は壊滅させられ(一二世紀半ば)、この地方もフランス王国に併合された。

一七世紀末の条約によりスペインとの国境が西に移ると、この地域の軍事的拠点としての役割は薄れていった。

商工業振興施策 — 手工業の再活性化

本来、産業・経済に関することは州の権限であるが、現場の声として県への支援要請が多いことにかんがみ、オード県は中小の商工業等の活性化に着手することにした。過去には大企業の誘致も試みたが成功しなかったため、方針を変え中小企業の活性化を目指すこととした。欧州連合、国、州、県が資金を拠出し、これらが参加する

戦略委員会が全体の支援額を決定し、個別の案件に対しては商工会議所が国、州、県と連携して調整に当たる。

この中小企業活性化のための補助金は、具体的には、県内の手工業者、小規模な事業者(例えば一店当たり従業員四〜七名程度の製パン販売業者、眼鏡店、配管業、左官業等)を対象とし、補助率三〇%、上限額は一万一〇〇〇ユーロである。内容としては、建物の修復(他店と景観を合わせて地域イメージをよくする)、機械類の更新などである。なお、雇用創設と直接に結び付けたメニューはない。



↑今でも観光レジャー用等に活用されているミディ運河



↓ Pays Cathare ブランドの地元産特産物の販売所
← その扉にある Pays Cathare のマーク



地域振興施策

「カタリの郷土（くに） ： Pays Cathare

もともとは八〇年代半ばに、文化的プログラムとして、アソシアシオン（一九〇一年法に基づいて法人格が与えられる非営利社団）である文化資産委員会（県議会議長＝県

知事が委員長）が地域内の歴史的建造物のリスト作りを始めた。その後、それを活用して「カタリの郷土（くに） Pays Cathare」という、いわば一種のブランドを地域振興につなげる施策が実施されている（この施策も欧州連合の補助を受けている）。

「カタリの郷土（くに） Pays Cathare」ブランドの目的は、「付加価値」を付けることにあり、その具体的内容は、①質の高い生産物、②高収入が得られる質の高い生産技術、③観光客に提供する質の高いサービスの三本柱となっている。

オード県では、観光客は城塞都市カルカッソヌを見学するだけで宿泊が伴わない現状がある。「カタリの郷土（くに） Pays Cathare」の取組みはこれを改善し、さらに夏季においては、地中海沿岸部に来るバカンス客を内陸部へ誘導するための施策ともいえる。

具体的には、城跡、修道院に加え、洞窟、温泉等の恵まれた自然資源を利用した拠点づくりを行い、観光客を呼び込む。また、「カタリの郷土（くに） Pays Cathare」産の「認定ラベル」作り（写真参照）を実施しており、現在のところ二五業種六〇〇社（例えばパン、ワイン、豚肉等）で利用されている。

おわりに

カタリの郷土（くに）のラベル商品の販売店や城跡の案内所などを見学したが、オード県の商工業・地域振興施策は、地元住民の熱意と県の努力がうまくかみ合っており、着実に成果を上げていると感じた。

最後に関係者が語った一言が、これらの施策の現状と将来を示していると思う。「われわれ行政関係者が、こういう補助制度があります、こういう施策があります、と住民に対して広報するよりも、住民の方から自発的に、こういうことを実施したいが何か補助制度がないかどうか尋ねてくれるような、いわば住民が能動的に行動してくれるようになれば、この施策は成功といえる」と。



↑ カタリの郷土（くに）： Pays Cathare をあらわすオード県の観光案内板